

氏名	新 田 浩 喜		
学位の種類	医 学 博 士		
学位授与番号	博 甲 第 873 号		
学位授与の日付	平成2年 9月30日		
学位授与の要件	医学研究科外科系整形外科学専攻 (学位規則第5条第1項該当)		
学位論文題目	リウマチ膝関節における前十字靭帯脛骨付着部の病態		
論文審査委員	教授 寺本 滋	教授 村上宅郎	教授 折田薫三

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

全人工膝関節置換術時に採取した慢性関節リウマチ (RA) 32膝関節における前十字靭帯 (ACL) 脛骨付着部の病理学的観察を行った。対照には変形性膝関節症 (OA) 6膝と2例の大腿切断の際に採取した膝を用いた。ACL 脛骨付着部の組織像はH.E.染色, 酵素抗体法 (PAP 染色) を行い光顕的に観察し検討した。

RAのACL脛骨付着部の病変は, 膠原線維の走行の乱れ, 非石灰化軟骨層・石灰化軟骨層の消失, 線維芽様細胞の靭帯脛骨付着部での増加, tidemarkの変性, 線維性肉芽組織の侵入, 骨層板の菲薄化, 骨髄の炎症像, 血管の増生がみられた。しかし, 石灰化や骨化はみられなかった。また, 骨髄側からの線維性肉芽組織の侵入像が観察され, 靭帯骨付着部における破壊を起こしているものと考えられた。

これらの所見に関して相互の関係を統計的に検討すると, RAのACL脛骨付着部の病態は tidemark の変化が最も重要な指標になると考えられた。

線維性肉芽組織によって骨が侵食されているところでは, 単核の大型細胞と紡錘形の線維芽様細胞にリゾチーム陽性所見を認めた。一方, S-100蛋白染色では, 単核の大型細胞に陽性所見が認められた。これらの細胞は軟骨細胞由来で, 骨吸収にも関与すると考えられた。

RAのACL脛骨付着部の破壊は, 靭帯の損傷に対する肉芽組織出現と自己修復能の欠落だけでなく, 早期からの骨髄側からの炎症性肉芽の侵食による骨層板の菲薄化など, 多くの因子が関与して進行するものと考えられた。

論文審査の結果の要旨

本研究はリウマチ膝関節に関する研究であるが、本症における前十字靭帯の胫骨付着部の病態に関して検索した結果、膠原線維の走向の乱れをはじめ種々の因子が関与するが、とくに tidemark の変化が最も重要な指標となることを見出したものであり価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。